

「ステファノたち七人の選出」

2024年01月24日

その頃、弟子たちが増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人からヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられているというのである。そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めて言った。「私たちが、神の言葉をおろそかにして、食事の世話をするのは好ましくない。そこで、きょうだいたち、あなたがたの中から、霊と知恵に満ちた評判の良い人を七人探しなさい。彼らにその仕事を任せよう。私たちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊とに満ちた人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。（使徒6：1～6）

原始エルサレム教会は民衆から好意を持たれ、日に日に、主イエスを信じる仲間が増えていった。財産を持ち寄り、分かち合って、不足する者はなく、神を賛美し、互いに愛し合い、喜びと感謝に溢れる教会であった。ところが、その教会の中で差別問題が起こった。それは、ギリシア語を話すユダヤ人からヘブライ語を話すユダヤ人に対し、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられているという苦情であった。ギリシア語を話すユダヤ人とは、ユダヤ人であるが、ユダヤから離れ、ギリシア語を話す異教の国で暮らしていた人たちで、ディアスポラ（散らされた）のユダヤ人と言われていた。その人たちがエルサレムに帰国し、教会に加わっていた。ヘブライ語を話すユダヤ人は、ユダヤから離れずに住んでいた生粋のユダヤ人である。異教国から帰国し、ギリシア語を話すユダヤ人のやもめたちが、食料の配給において、公平に配られてないという苦情が出た。夫を失い、社会的に弱い立場にある彼女たちが軽視される状況が生じたのである。これは、ユダヤに住んでいたユダヤ人の方が優位にあるという奢りの表れであり、弱い者への蔑視である。共有財産制を喜び、終末を待望する篤い信仰にあり、同胞でありながらも、ディアスポラのユダヤ人を差別するようになったのである。

この時、12使徒は教会の仲間たち全員を集め、この問題の解決策を提案した。使徒たちは神の言葉の宣教を神から与えられた大事な務めに当たる者である。それなのに、食事を公平に配ることに携わるのは、神からの使命に答えられなくなる。あなたがたの中から、霊と知恵に満ち、仲間から信頼されている人を7人選んで、彼らに公平な食事が行きわたる仕事をさせよう。使徒たちは祈りと御言葉の奉仕に専念したい、と。

この提案に一同は賛成し、信仰と聖霊とに満ちた人を選んだ。それが、ステファノ、フィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオの7人である。使徒たちは彼らを立たせ、彼らの上に手を置き、祝福を祈った。理想的な教会として出発したが、人間の集まる所なので、やはり、人を蔑む差別が起こった。しかし、教会は即座に、この問題を乗り越える手立てをし、実行していった。いつの世でも、迅速に問題を福音的に解決する開かれた教会でありたいと願う。

選ばれた人々は、食事の公平な分配の仕事に当たったのであろうが、彼らは、強力な福音宣教者でもあった。ステファノは、最高法院で大説教をするが、受け入れられず、石打ちの刑に遭い、キリスト教会で最初の殉教者になる。フィリポはエチオピアの高官に福音を告げ、キリスト教徒に回心させている。